



「お城を見つめ直す」

点 鐘 12:30

司 会 S.A.A・プログラム 宮澤クラブ管理委員長
斉 唱 「我等の生業」

年男お祝い記念品贈呈 西牧会長
〔年男お祝〕 櫻井会員



会長あいさつ 西牧会長

一般的に65歳以上とされている高齢者の定義について、日本老年学会と日本老年医学会は5日、75歳以上とすべきだとする提言を発表した。65~74歳は「心身とも元気な人が多く、高齢者とするのは時代に合わない」として、新たに「准高齢者」と位置づけました。これは医師や心理学者、社会学者らでつくるワーキンググループが日本人の心身の健康に関する複数の調査結果をもとに2013年から検討してきたものです。

65歳以上では脳卒中などで治療を受ける割合が以前より低下する一方、身体能力をみる指標の歩行速度などが上がる傾向にあり、生物学的に10~20年前に比べて5~10歳は若返っており、知的機能の面でも、70代の検査の平均得点は、10年前の60代に相当するという報告があり、根拠の1つとされました。また、「高齢者とは何歳以上か」を問うた内閣府の意識調査(2014年)では、「75歳以上」との答えが28%で、15年前より13ポイント上がったのに対して、「65歳以上」は6%で、12ポイント下がった。こうしたことから、提言では高齢者は75歳以上とし、65~74歳は「高齢者の準備期」と位置づけ、この世代を「社会を支える人たち」と捉え直しました。また、平均寿命の伸びなどを考慮して、90歳以上は「超高齢者」とした。グループ座長の大内虎の門病院長は「意欲のある65歳以上の人たちが社会に一層参加していくきっかけになってほしい」とコメントし、あくまで医学的な観点から高齢者を「75歳以上」としました。高齢者には年齢などによる厳密な定義はありません。しかし、一般的に「65歳以上を高齢者」は先進国でほぼ共通しており、国連が1956年の報告書で、

65歳以上の割合が人口の7%以上となった場合に「高齢化した人口」と記したことが始まりとされています。現在でも人口に占める高齢者の割合を国際的に比べる指標として使われているため、いまの一般的な定義や概念がすぐに変わることは考えにくいと思われます。

この提言は健康な高齢者が社会に参加していくことを一層促す内容となっており、雇用や社会保障のあり方をめぐる議論の材料として使われるなど、一定の影響を与えそうです。

スポーツ庁が昨秋発表した体力・運動能力調査によれば、65~79歳の握力や上体起こし、6分間の歩行距離といった体力の数値は男女とも向上傾向にあります。

高齢者を雇用し続ける企業も増えています。厚労省の昨年の集計によれば、定年制を廃止した企業は約4千社、希望者全員が66歳以上まで働けるようにする制度を設けた企業が約7400社あり、いずれも前年より増加しています。

65歳を超えても健康であれば、働き続けることで社会に参加したいという意欲につながりやすい。若いころと変わらない収入を得る人が増えれば、そうした人たちが年金を受け取り始める年齢を現在よりも遅らせたり、医療にかかる自己負担の水準を上げたりといった議論につながって行く可能性も危惧されます。

65歳以上のすべての人が健康とは限らず、働きたくても働けない人もいます。座長の大内虎の門病院長は「提言が社会福祉の水準を下げるような方向には働いてほしくない」と語っていますが、この提言がよい方向に利用されることを希望します。

幹事報告 藤田幹事

①糸魚川における大規模火災に対する義捐金について。(回覧資料参照)

地区事務所より昨年12月に発生しました、糸魚川市の大規模火災の義捐金お願いがまいりました。

義捐金…会員1人当たり1,000円。希望納入期限…1月20日。ご協力をお願い申し上げます。

②各RC例会変更のお知らせ。

[塩尻北RC] 2月2・16日(木)休会(クラブ指定)

出席報告 山崎クラブ管理委員

会員総数 22名(内出席規定適用免除欠席者3名)

本日の欠席者5名(他2名は事前メイキャップ済)

出席率 73.68%

前々回(1/4)修正欠席者3名 出席率 85%

ニコニコボックス報告 山崎クラブ管理委員

コメント ◇今場所大相撲が面白い。迫力ありますね。西牧君 ◇櫻井会員おかえりなさい。藤田君 ◇寒いですね。雑誌評論よろしくお願ひします。西川君 ◇櫻井さん、よろしくお願ひします。征矢君 ◇日曜日こちらでお茶会があり、その後 月・火・水とブエナビスタ 4日連続出勤です。明日一日長野で、金・土・日とです。全て別の会なのですが、こちらに住んだ方がいいかも!! 宮澤君 ◇忘年会、新年会と続き、飲む機会が続きましたね。くれぐれもお体に気を付けて下さい。山崎君 ◇毎日寒い日が続きます。現場は雪よりましですが、皆様健康に気を付けましょう。児野君 ◇今日は、何となく風邪っぽいかな。私のそばに寄らないで下さい。井筒君

なんとなく ◇櫻井君 ◇征矢君

配布資料 ; 「Rの友1月号」「幹事報告」「会報No.25」

回覧資料 ; 「4RC合同例会開催のお知らせ」

～ プログラム ～

＜年男年頭所感＞

櫻井俊夫会員

今年の干支は、丁酉(ひのと)で、私は72歳の年男だ。

実母は93歳で亡くなったが、母は、喜寿や米寿の祝い事をすべて嫌った。「節目

の祝い事をすると早死にする」と言うのだ。そのお蔭かどうか長生きをした。兄は、昨年77歳で逝った。母の口癖があり少し嫌がったが、7月に喜寿のお祝いを皆でした。10日後に、悪性リンパ腫を発症し、その治療中に今度は心筋梗塞のバイパス手術をし、最期は肺炎で死んだ。偶然といえばそれまでだが、迷信もあながち無視はできないものかもしれない。

もじも5年後に元気でいたならば、はたして私は、喜寿の賀を喜ぶのだろうか。因みに5年後は、たぶん年号も改まり、干支は壬寅(みずのえとら)、方位は北、天神は玄武(先日から公開されたキトラ古墳の壁画)となるはずだが。

＜雑誌評論＞「Rの友1月号」

西川クラブ広報委員長



横書き7ページの「守り、伝える」として日本各地に伝承される郷土(古典)芸能や、その地域で独自に育まれてきた文化。後継者がいない、地域でもあまり知られていない、お金が足りないなど、伝統

文化の維持・伝承には、さまざまな課題があります。今回の特集では、こうした伝統文化を支える取り組みを行うロータリークラブの活動を紹介します。

甘木盆俄は当初は風流、神楽などであったものが歌舞伎に転向しました。昭和29年を最後にその歴史が途絶えたが、昭和56年に甘木RCも後押しし、資金提供と人的支援を行い現在に至っています。写真を見ますと本格的で、お金の心配をしてしまいます。

堺フェニックスRCは「堺かるた」復刻版を再版し堺市に寄贈しました。松本でも松本JCが昭和52年に昭和9年頃開智小学校の先生方が作った「松本郷土歌留多」を基にして作られかるた大会をやっておりました。

稚内RCは去年5月に地区補助金を活用し、松前神楽の公演を行いました。

鳥取県の倉吉RCは伝統の「はこた人形」を、製作をすることによりPRしました。松本にも松本押絵雛が有名で、江戸時代後期に伝えられ明治時代の中頃にピークを迎え、そのあとは雛飾りに押され衰退したそうです。

次に14ページの「職業奉仕」はロータリーの根幹かの記事があります。日本のロータリーでの職業奉仕とRIが違い、日本の職業奉仕論は職業倫理論である。職業奉仕という言葉の受け止め方を再考する必要があると筆者は述べております。

60ページにロータリーの友8月号からの記事があり、規定審議会の例会方法等に疑問符をつけております。

62ページにロータリーの栄光と魅力の記事があり、同様に規定審議会の改正に疑問符をつけております。これから実際にどのような動きになるかわかりませんが難しい点であります。

73ページの世界に売れるMade in Japanは沼津西RC創立25周年の記念講演であります。日本の技術、ノウハウ、モノは非常に優れていて、海外で非常に評判が良いものです。どのように世界に売れる日本の良いものを売り出していけばよいかということを考えております。まず観光立国であり、観光客の増加により日本を知り、日本独自の商品、技術、ノウハウ、運営手法などが注目を浴びております。中国政府は日本での爆買いを抑えるため、関税を変えお土産等に関税を掛けるようにしたところ爆買いは沈静化し東京の百貨店は大きな影響を受けました。

これからはスマートフォンを使った決済が重要であります。又これから日本の安全な衣食住の要望が絶大であります。医療ツーリズム、食品、子供用品の人気があり、鮮度を失わないものを見出して売っていくこと、こうした努力を続けていくことが、今後人口減少の日本の国力を維持することになるものと思います。と述べております。

点 鐘 13:30

西牧会長

[写真;西川]